

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 6 回 定例委員会
日 時	令和4年6月24日 自 15時00分 至 15時40分
場 所	第2庁舎2階南会議室
出 席 委 員	教 育 長 福 原 功 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 岡 田 秀 樹 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 委 員	委 員 齋 藤 智 子
会議録署名委員	高 橋 憲 司 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 竹 中 響 紀
事 務 局 職 員	教 育 部 長 山 口 朋 史 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 学 校 教 育 課 長 神 保 英 士 学 校 給 食 共 同 調 理 場 杉 本 貴 浩 総 務 企 画 課 長 補 佐 猿 田 秀 一 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 総 務 企 画 課 主 事 竹 中 響 紀
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（福原教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（高橋憲司委員）
3 会議録の承認
（福原教育長） 第5回定例教育委員会（令和4年5月20日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（福原教育長） はじめに、新型コロナウイルス感染症の現状につきましては、胆振管内、苫小牧市内共に落ち着きを見せております。国内では、6月10日に外国人観光客の受け入れが再開され、今月中には新千歳空港の国際線受け入れも再開される見通しです。これからは国内外から北海道に多くの観光客が来られるシーズンを迎え、さらなる人流の活発化が予測されます。また、政府における「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の変更がありましたが、この中で、マスク着用に関する考え方が示されるなど、緩和の動きが見受けられますが、基本的な感染対策の重要性は変わるものではないことを踏まえ、国、道などからの通知に、適宜適切な対応を取られるよう、定例校長会で私から各校長先生に対し要請したところでございます。
先日、道教委から令和5年度から令和7年度の公立高校配置計画案の発表がありま

した。その中で、胆振関係では、学級減が令和5年に室蘭栄1学級、令和7年に室蘭工業1学級、募集停止が令和7年に穂別という内容です。他の地区では令和7年の再編統合が岩見沢や富良野で計画されるなど、少子化が進展する状況下、教育環境の確保に向けた様々な動きが続くものと感じております。各教育局単位で進められる高校適正配置ですが、地域主導による前向きな再編について、市教委としても主体性を持った検討が必要と考えているところでございます。

次に、市議会の話をさせていただきます。第22回市議会定例会が5月31日に開会され6月10日に閉会をいたしました。一般質問では過去最高の24人が質問に立たれ、そのうち教育関係の質問者は14人で行いました。主な質問項目としては、「不登校対策」「タブレット端末導入後の取組」「コミュニティスクール」など市教委として重要課題に関する項目のほか、「部活動の今後の在り方」「樽前小学校改築計画」など地域と関係性が求められる項目、また、生涯学習関連としましては「長生大学の学生を増やす取り組み」に関する質疑が行われました。主な項目の答弁では、「不登校対策」につきましては、教育の最重要課題である認識のもと、様々な対応について学校、地域と一体となって取り組むこと、「タブレット端末導入後の取組」につきましては、子どもたちが慣れた様子で使用していること、先生方が意欲的に活用されていることについての感想とともに、ネットワーク環境の課題認識を伝えました。「コミュニティスクール」については、校区連をコミスクへ移行していく方針のもと関係者と協議を進めていること、また、「部活動の今後の在り方」につきましては、部活動の地域移行に関して、あらゆる課題整理が必要な現状認識であり、地域性を活かした部活動になるよう、先を見据えた検討を進めると答弁しました。

また、先月の第5回定例教育委員会で議案として説明をさせていただきました「樽前小学校改築計画」につきましては、今市議会の文教経済常任委員会で説明を行い、一般質問と併せて、今後の実施設計業務での検討材料となる質疑を行ったところでございます。

また、補正予算として提案をしておりました、新型コロナウイルス感染症対応地方

創生臨時交付金を活用した「物価高騰に伴う学校給食費等に関する負担軽減事業」が可決いたしました。この事業は食材価格が高騰しているなか、学校給食費を増額することなく、栄養バランスや量を保ち、充実した学校給食を維持・実現するため、学校給食会に対し支援するものでございます。

最後に市長公約についての話をさせていただきます。6月12日告示、19日に投票が行われました市長選挙につきましては、現職の岩倉市長が当選者となりました。

5期目となる任期は令和5年7月9日から令和8年7月8日までとなります。岩倉市長の5期目の公約の中で、教育に関する項目としては、「子どもたちの学習環境を整え、社会で自立して生きる能力を養うこと」や「まちの国際化」「文化芸術振興」などが掲げられているほか、「民間活力の導入」や「公有財産の有効利用」、「ゼロカーボン実現に向けた環境教育」など、市を挙げて取り組む項目など教育にも関連するものが掲げられております。市長公約は、次の任期がスタートする7月9日には「市の政策」となります。市教委としては、公約内容を精査し、公約実現に向けて調査、検討を進めるとともに、全市を挙げて取り組む項目も含めて、市教委としての考え、方向性、スケジュール感などをしっかりと持って取り組んでまいります。

私からの報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

第1号 苫小牧市立小中学校規模適正化地域プラン【植苗地区】について

(斎藤次長) -苫小牧市立小中学校規模適正化地域プランについて説明-

(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

<p>(高橋委員) お話の内容は理解しました。子供たちの人数が減る中では、一つの方法としては適切だと思っています。また、できたばかりの制度ということで、まだ実際のメリット、デメリットが見えにくいところがあるのかなと思います。先ほど少しおっしゃられていた教科の件に関して、年数が6年間、3年間と色々な形に変更できるということでしたが、それに関して対応のできる教員の教育など、今の時点で決まっていることはあるのでしょうか。</p>
<p>(斎藤次長) 今委員からご指摘があった通り、今のところ植苗小中学校では6、3制から4、3、2という区切りに分けるようなイメージで考えております。その中で、小学校5年生から積極的に教科担任制というものを取り入れていきたいと考えております。しかし、おっしゃられていた通り、そこに対応できる教員というのがすべての教科ですぐにそろえるというものではありませんので、経過措置というような期間の中で、通常の人事異動の際に義務教育学校を望む教員を入れていくような形になります。そして、その学校の中で併用を考えていくということになります。</p>
<p>(高橋委員) ちなみに教科書などはまた別な教科書を使用するのでしょうか。</p>
<p>(斎藤次長) 教える内容については、義務教育学校の前期課程6年間、後期課程3年間、と普通の小中学校では全く変わりません。ですので、義務教育学校ではそれを、例えば小学校の免許を持っている先生が、5年生の数学を教える、というような仕組みになります。</p>
<p>(高橋委員) はい。ありがとうございました。</p>
<p>(佐藤委員) まだ、これからのことなので、たくさん決まっていないことがあるとは思いますが、特に中学校にあたる学年の場合は進学先を考えていくということが家族としても問題になると思います。教育課程の組換えをしないということは時間配分を変えてもいいということと認識しておりますが、進学についての相談や説明などに関しても9年間の集大成として進学していくことになると思います。小学校から中学校に上がるときの進学としてほかの学校を選ぶ可能性もありますので、小学校から中学校に上がる際や高校に上がる際の、進学指導などを担当する方がいらっしゃる</p>

のか、現時点で分かっていることを教えていただけますでしょうか。

(斎藤次長) 義務教育学校において義務教育9年間の各区切りは細かく分けたりしますけれども、義務教育9年間という考え方はほかの小中学校と考え方は変わりません。ですので、高校に進学するという考え方に全く変わりはなく、高校進学のための進路指導の担当というのはほかの学校と同じように当然配置されるものになります。例えば、小学校6年間が終わり、義務教育学校だと7年生になるようなタイミングで、ほかの私立中学校に進学したいというようなケースもあるかと思います。そこに関しましては、実際に望む方もいらっしゃるかと思いますので、個別に対応していくことになるかと思いますが、そのために9年間のなかで未履修科目を作らないようカリキュラムの大きな書き換えをしないということに決めました。

(佐藤委員) ありがとうございます。もう一点なのですが、学校というのは地域的な関係があり、非常に密な社会だと思います。もちろんどこでもいいところと悪いところがあると思いますが、成長していく過程においてこの地域ではないところで勉強したいという気持ちが生まれてくることがあるかと思います。その時に、私立の学校は良いということになってきますと、市内での選択に関しては道が開けていない状況にあると感じるのですが、そういうことも準備としてお考えなのでしょうか。

(斎藤次長) 以前一度協議した際にも委員の方から、中学校に進学するときに大きな学校に行きたい子もいるのではないかというようなお話もされていたことも踏まえて、植苗小中学校の在り方についてアンケートを行いました。その中で今、現状としては中学校に上がるにあたり、別な学校へ行きたいという方が2名と、希望する方があまりいないという結果になりました。ただ、少なからずこれが私立なのか、大きい学校を意味しているのかは分からないため、個別に対応していくことにはなりますが、基本的には植苗地区という校区の中で動いているので、あえてウトナイ中学校に行きたいといった場合に区域外の通学を認められるかということになります。この件に関しては今すぐに結論を出すことはできないと思います。

(佐藤委員) 難しいことを伺いました。ありがとうございます。

<p>(岡田委員) 苫小牧市内の地域では収入面で格差がなく、教育を受ける機会が均等になるようにということで、小規模校についても併置校から義務教育学校へということだと思います。趣旨としては義務教育をきめ細やかに行うということで、義務教育学校と一般の学校とでは理念の違いなどは同じだと思うのですが、具体的にはどういったところが違うのでしょうか。</p>
<p>(斎藤次長) 非常に難しいところで、ご指摘のとおりだと思うのですが、一人一人にきめ細やかな教育を受けさせたいというような理念に関しては学校の規模がどんなに小さくて大きくても同じだと思っております。ただ、それぞれのメリットデメリットがある中で、例えば、大きい学校ですと、複数の先生が学校に配置されており、少人数指導が可能であったり、フリーの先生が何人もいて個別に対応できたりしておりますが、今の植苗の状況だとそれはなかなか厳しい状態となっております。小学校で言いますと、学級分の先生しかいないので他の先生が入ると言うことが難しくなってきます。もともと人数が少ないので、少人数指導であるといわれるとそうなのですが、そういったメリットデメリットを考えながら、同じ教育理念のもとでそれぞれのデメリットを少なくしていきたいと考えており、少なくとも植苗のことですと、義務教育学校にすることで明らかにメリットが大きくなるというものと考えております。</p>
<p>(岡田委員) はい。ありがとうございました。</p>
<p>(福原教育長) 他に何かございますでしょうか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>(福原教育長) 質疑がないようであれば、原案どおり決定することよろしいでしょうか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>

(福原教育長) それでは、議案第1号は原案どおり決定いたしました。
第2号 学校給食共同調理場運営審議会委員の委嘱について
(福原教育長) 次に、議案第2号についてですが、人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、本会議の日程の最後に審議したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(福原教育長) それでは、議案第2号を秘密会とし、本会議の日程の最後に審議することに決定いたしました。
6 報告・協議
報告(1) 教職員の人事異動に係る内申について
(福原教育長) 次に、報告第1号についてですが、人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、本会議の日程の最後に審議したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(福原教育長) それでは、報告第1号を秘密会とし、本会議の日程の最後に審議す

ることに決定いたしました。

(福原教育長) これより、先ほど秘密会と決定しました議案第2号、報告第1号について審議をいたします。関係者以外は退席をお願いいたします。

(福原教育長) それでは、委員会を再開いたします。なお、議案第2号につきましては、原案どおり決定し、報告第1号につきましては報告どおり終結したことを申し添えます。

7 その他

(福原教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。

(一同「なし」の声)

8 委員会閉会の宣言 (福原教育長)・・・15時40分